

事務局より、自然再生協議会に提案された釧路湿原自然再生表彰等について説明がなされた。その後、委員による意見交換と検討が行われ、表彰方法などについては、来年度引き続き検討することとなった。

■釧路湿原自然再生表彰について

- 行政が行っている取組み以外をどうしたら広げられるかということから出た提案である。難しく考えずに、緩やかにこのようなことをやってみてはどうかという提案である。
- 釧路湿原の自然再生になんらかの形で協力してくれた方や、その活動に参加して下さった方などを自薦他薦で選んで表彰するというものである。
- 取組みとしては良いと考える。基金からのお金を研修などに有効活用するなどの流れを作るというのも良い。次年度に新たに立ち上がるかもしれないワーキンググループや再生普及小委員会で検討すべき事項に加えていただきたい。
- 賛成である。これを公募するなどして関心を高めても良い。
- 選定の仕方や、誰がどう選定するのが難しい。選定委員会を作るなどして進むしかない。ワンダグリンドに過去何年間の参加実績があるかなどから始めてはどうか。
- これは自然再生協議会が実施して表彰するという形である。再生普及小委員会ではワンダグリンドの参加者に対して表彰状を出していたが、それとはまた違う。途中で種切れにならないようにするべきである。
- 表彰者の選定は会長に一任で良い。選定理由を会長が説明できる程度のレベルで良い。それ以上難しく考えると、選定基準や選定されたメリットについても考える必要が出てくる。次年度に改めて時間をとって議論した方がよい。
- あまり深く考えてしまうとできないのではないかと。軽い気持ちでやった方がよい。
- 新しく小委員会が立ち上がり、そこで何らかのワーキングができた時点で、そこが基本的に考えて議論していく。その議論の中身に関していうと、あまり深く考えると大変になる。それらを考慮して検討してみたい。

委員長 委員 事務局

■「豊かな緑と魚のリバーサイド植樹活動」の紹介

- 釧路川の恩恵を受けている漁業者や農業者をはじめ、そこに暮らす住民が、自らの手で河川周辺に植樹することにより、清らかな釧路川水系の回復と、森林の大切さの普及啓蒙を促すことを活動の趣旨としている。この植樹活動実績が20年にも及ぶことから、販売する釧路ししゃもや鮭に貼る自然再生協議会の認定シールを協議会として発行して、商品価値を上げるなどの連携をはかることをぜひご検討いただきたい。

委員長 委員 事務局

■ 釧路開発建設部と再生普及小委員会との連携の紹介

- 釧路市立光陽小学校にて出前講座「釧路湿原やそこに生息する生き物について」を行った。
- 釧路開発建設部では、川を学ぶ、道路を教えるなどの学校教育支援的な活動を行っている。今回、光陽小学校の3年生向けに出前授業を行い、再生普及よりご協力いただいた湿原の成り立ち模型を利用し、パワーポイントの作成をするなどして対応した。子どもたちに非常に興味を持ってもらえた。情報共有と連携の事例として報告する。
- 釧路開発建設部として、このような項目であれば出前講座ということをホームページでも記載している。
- 他の小学校などから要請があれば出前授業をするのか。

委員長 委員 事務局

第24回 再生普及小委員会 出席者名簿(敬称略、五十音順)

- | | |
|---|--|
| <p>個人[5名]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 貞園 利夫 ● 白谷 和明 ● 新庄 久志 ● 高橋 忠一 ● 鶴岡 秀典 | <p>団体[7団体]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 釧路国際ウェットランドセンター [事務局長/菊地 義勝] ● 釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 [芳賀 孝朋] ● 釧路湿原国立公園連絡協議会 [事務局長/菊地 義勝] ● 公益財団法人北海道環境財団 [事務局次長/久保田 学] ● さっぽろ自然調査館 [代表/渡辺 修] ● 特定非営利活動法人タンチョウ保護研究グループ [井上 雅子] ● 独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所水環境保全チーム [主任研究員/柏谷 和久] |
| <p>関係行政機関[5機関]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 [治水課長/秋山 泰祐] ● 環境省 釧路自然環境事務所 [所長/西山 理行] ● 林野庁 北海道森林管理局 [釧路湿原森林ふれあい推進センター 所長/網倉 和弘] ● 釧路市 [湿地保全主幹/菊地 義勝] ● 釧路町 [商工観光係長/大中 公史] | |

資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。
http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/kasen/kushiro_wetland/index.html

ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。
電話・FAXにて事務局まで御連絡下さい。

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

[TEL]0154-23-1353 [FAX]0154-24-6839

釧路湿原自然再生協議会

再生普及小委員会 ニュースレター

編集・発行：釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

平成26年12月19日(金)「第24回 再生普及小委員会」が釧路地方合同庁舎5階 第1会議室で開催されました。

開催概要

「第24回再生普及小委員会」が平成26年12月19日(金)釧路地方合同庁舎5階 第1会議室で開催されました。小委員会には個人5名、団体7団体、関係行政機関5機関が出席しました。今回は、行動計画ワーキンググループの経過報告、環境教育ワーキンググループの取組み報告・活動予定、再生普及行動計画の見直しについて話し合わせ、活発な意見の交換が行われました。



達古武湖湿原再生事業現場見学会

Discussion about Regeneration of Kushiro Marsh

このようなことが話し合われました。

行動計画ワーキンググループの経過報告

事務局より再生普及行動計画ワーキンググループの経過報告が行われ、再生普及行動計画WGの取組みや進捗状況などについて説明がなされた。その後、委員による意見交換と検討が行われた。

■2014年度再生普及行動計画WGの取組み報告について

① 行動計画の進行管理、活動支援

- 「ワンダグリンド・プロジェクト2013」活動報告書の作成、配布
- 「ワンダグリンド・プロジェクト2014」の進捗把握、活動支援
- 「ワンダグリンド・プロジェクト2014」登録証の発行
- 「ワンダグリンド・プロジェクト」普及シール及びポケットティッシュの配布
- フィールドワークショップの実施(2014年8月12日) 釧路湿原の不思議ゾーン「赤沼」周辺の湿原散策



達古武森林再生事業現場見学会

② 情報発信・普及活動の拡充

- メールニュースの配信、掲示
 - 市町村広報誌、新聞などメディアへの情報提供、記事掲載
 - イベントへの出展、パネル展の開催
- エコフェアくしろ2014(2014年6月7日)
釧路生涯学習フェスティバルまなトピア2014(2014年11月8日～9日)



下幌呂湿原再生事業現場見学会

③ 自然再生事業の現地見学会及び自然再生活動への参加機会作り

- 「自然再生に参加する、行動する」の取組み促進 『釧路湿原の自然再生に参加しよう!』イベントの実施(2014年7月～9月)
- 各小委員会主催イベント 釧路湿原自然再生現場見学会「達古武森林再生」(2014年8月3日、4日) 「下幌呂湿原再生」(8月7日)、「久著呂川土砂流入」(8月20日) 「達古武湖湿原再生」(8月23日)、「茅沼旧川復元」(9月26日)
- 「釧路湿原の自然再生に参加しよう!」参加者アンケートについて
- 「ワンダグリンド・プロジェクト2014」取組み数について 57団体(個人)による79の取組みが登録



久著呂川土砂流入事業現場見学会

環境教育ワーキンググループの
取組み報告・活動予定

① 教科学習での釧路湿原の活用促進を目的とした
授業の作成支援

・北海道教育大学釧路校との連携における資料や情報の提供、
協働での現地取材等の作成支援
(鶴居村立鶴居小学校6年生、理科、2014年12月19日)

② 教員研修講座の実施

・体感! 釧路湿原～理科と社会の視点から(2014年6月26日)
・体感! 釧路湿原～授業での活用を考える(2015年2月14日)

事務局より環境教育ワーキンググループの経過報告が行われ、
2014年度環境教育WGの取組み報告などについて説明がなされた。
その後、委員による意見交換と検討が行われた。

③ 流域圏の小学校、中学校、高等学校を対象とした
アンケート調査の実施

・学校での総合的な学習の時間における取組みテーマ、
釧路湿原や釧路川を題材とした学習の実施状況、
環境教育WGが作成した資料等の活用状況等の把握が目的

再生普及行動計画の見直しについて

① 釧路湿原自然再生普及行動計画改定案のポイントと新たな推進体制等について(案)

- ・行動計画改定の経緯と今後の見直し
- ・行動改訂の背景
- ・行動計画の骨格
- ・ワンダグリンド・プロジェクトの一部変更
- ・4つの重点分野
- ・進行管理と推進体制
- ・行動計画WGの体制変更(案)
- ・環境教育WG→(仮)学校支援WGへの変更(案)
- ・寄付金の基金化と活用について
- ・当面の想定スケジュール

ワンダグリンド・プロジェクトの年度ごとの報告書を大きく変更する
提案がある。参加していた方々からは「毎年似たような活動をしてい
るがその度に同じ報告を書かなければならないのは大変である。」と
いう意見があった。この様な意見も踏まえ、毎年の活動は簡単な報
告で済ませて、5年毎に詳しく報告するという提案が出た。

5年という間隔は、行政では担当者など、ボランティア団体などで代表
や担当者が変わることがある。引き継ぎをきちんとしないと渡れない。

5年間の報告書で、5年分の活動をただ並べるだけでは意味がない。
活動の分析など次の活動に参考となるまとめが載っていると良い。

5年間のまとめで報告書を作るのであれば、当然評価にかかわる部
分や、その先の見直しも必要になる。全体構想の普及に関する項
目に照らしてどこまでできたか、4つの項立てごとにきちんと分析し
何が足りないかなどを書いていくことになる。

個人的には、報告書が5年毎では長すぎる。3年ぐらいが良い

5年目の見直しの作業の参考になるので4年が良いと思う。

資料23頁の環境教育WGから(仮)学校支援WGへの変更(案)
については、教材支援を念頭においているのか。

主として流域の学校教育における湿原の活動を支援したい。具体
的に3つ考えており、1つはモデル的に湿原を使った授業を実際に
やることと教材を作って提供すること。2つ目は、教員の湿原におけ
る研修機会を提供していくこと。3つ目は、学校だけの授業実施が
困難な時などに、ビジターセンターや博物館等、社会教育施設等と
協力して授業を成立させたいということ。

学校支援と言わないで学校教育支援というのはどうか。少なくとも
何も知らない人が聞いた時にイメージが持てないと困る。

事務局より、第3期釧路湿原自然再生普及行動計画(案)並びに行
動計画WG及び環境教育WGの体制の見直し等について説明がな
された。その後、委員による意見交換と検討が行われ、出された意見
を検討し反映したうえで協議会にかけることです承された。

以前の学校教育のワーキンググループを立ち上げた時は、委員会
が学校教育の中身を知らなすぎるという壁に突き当たった。これか
らはワーキンググループと学校の現場との掛け渡しをしてもらえる
学校の先生を探さなくてはならないし、再構築しなくてはならない。

23頁の寄付金の基金化についてであるが、現在81万円ほどの寄
付金があり、毎年数万円規模で増えている。基金化して規定を整
備し、民間による自然再生活動への助成、学校の湿原訪問への助
成、調査研究への奨学金として利用してはどうかと提案がされてい
る。基金化するには、事務局等を定める必要がある。新たにできる
(仮称)行動計画ワーキンググループで検討するという提案である。

基金として制度化するのであれば募集などが必要である。ただし、目
的や必要性を明確にする必要がある。

どのような目的で募集したのか。それと大きく外れることは、善意の
ものを裏切ることになる。

現在の金額は、募集していないのに集まったものである。釧路湿原
再生協議会が立ち上がった際に応援していただいたものである。ある目的
に賛同するというよりは、漠然と釧路湿原の自然再生を応援したいとい
う一つの意思表示である。基金を募る担当を設けるかを含めて考える。

この基金については、新年度、再生小委員会の中でワーキング
グループを立ち上げて検討するという方針が良いと考える。

基金が少額であるのは、積極的に寄付を募っていないからでもあ
る。まず積極的に募るかどうから考えるべきである。「再生事業を
進めるために必要なお金があるが、それは行政が出せない種類の
ものであり、寄付金さえあれば効果的に進む」というような事情がある
のなら積極的に募るべきである。個人的には現在の釧路湿原自然
再生事業においてはそのようなものは見えていないのだが、もし(そ
のような事情が)無いのであれば、「今後も積極的に募らない」と
いうことも選択肢を含めて検討するべきである。

委員長 委員 事務局

② 第3期釧路湿原自然再生普及行動計画(案)

●背景と経緯

・自然再生推進法の趣旨と全体構想を受けて、作成・実施してきた「釧路湿
原自然再生普及行動計画」(以下、「行動計画」という)について、第2期行
動計画が終期を迎えるため、策定に向けて第3期行動計画(案)を作成。
・2003年自然再生推進法に基づく「釧路湿原自然再生協議会」設立、
2005年「釧路湿原自然再生全体構想」策定、以降各地区における「自然再生
事業実施計画」策定。
・2005年「釧路湿原自然再生普及行動計画」作成、2006年から愛称「ワンダ
グリンド・プロジェクト」で活動。
・2010年「第2期行動計画」策定、2015年「第3期行動計画」策定予定。

●行動計画とは何か

・行動計画の目的

釧路湿原自然再生協議会としての取組み方針をまとめたもの。普及と活動支援
を目的とし、環境教育や自然再生への参加が地域に根付くことを目標とする。

・行動計画の性格

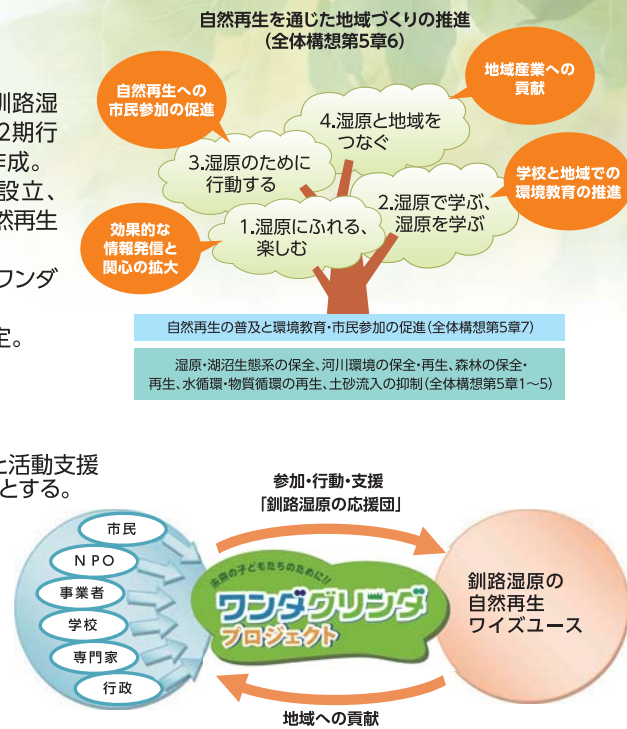
釧路湿原の自然再生の推進に向けて「できる者」が「できること」から
取組むことを原則に、「ワンダグリンド・プロジェクト」を通して、協議
会内外を問わず誰でも参加することができる。

・計画期間と推進体制

第3期は2015～2019年度。再生普及小委員会が推進主体。

・ワンダグリンド・プロジェクト

地域と自然再生をつなぐ「釧路湿原の応援団」。
4つの取組み分野にあてはまる具体的な取組みを随時募集。参加希望者は申請、承認を経て登録。



●具体的な取組み分野

- 湿原にふれる、楽しむ
- 湿原で学ぶ、湿原を学ぶ
- 湿原のために行動する
- 湿原と地域をつなぐ

これまで行動計画ワーキンググループではワンダグリンドを中心に
やってきたが、今後は小委員会で行っていくという提案である。基金
や小さな自然再生のようなものをどのように広めていくかなど、色々
な課題についてワーキングを置いてじっくりと話すということであ
れば、それに特化したワーキングを作れば良い。そうでなければ、例え
ば、それを設置し、様々なことを検討した上で小委員会に案を上げる
という仕組みにするべき。名称については未定であるが、何らか
の形でそのような事柄を検討するワーキングは継続すると考える。

30頁「3具体的な取組み分野」「3-1湿原にふれる、楽しむ」という
感覚的な項目に対して、後の文章は、協議会が行うことが書かれて
あり、その齟齬があるように感じる。30頁②「湿原の今を伝える」、
③「自然再生の今を伝える」というのは、「3-2湿原で学ぶ、
湿原を学ぶ」に書くべきことではないか。学習要素以外の「ふれるや
楽しむ」感じが全くない。そのため3-1のタイトルだけ見るとすぐ
違和感がある。全体構想では、普及と教育と参加という3つに分け
た取組に対して、こちらでは4つになっているためわかりづらい。第
2期の時には、解説の頁が一枚入っていた。今回はそれがなく、いき
なり「3具体的な取組み分野3-1湿原にふれる、楽しむ」となっており、
この部分は少し整理されたほうがわかりやすい。

釧路湿原自然再生について知識のない若い人たちにも理解さ
れるような作り方が必要である。

30頁から33頁については、「3具体的な取組み分野」で「3-1湿原
にふれる、楽しむ」といった後に、具体的に書いている一文が良い。
あえて①②③と無理に文章にする必要は無い。湿原にふれる、楽
しむや学ぶなどということが、どういふことなのかを文章でわかりやす
く書いておけばそれで十分である。整理して簡単にすべきである。

どの事業を5年先まで具体的に続けられるか書けないためここ
では方針としての記述をしている。

33頁の「3-4湿原と地域をつなぐ」の「自然再生による地域づくりへの
貢献を目指します。」や「①地域産業との連携」という部分は、これか
ら作る産業振興の取組とラップしており、上手く住み分けしたほうが良い。

34頁にあるように、普及小委員会が行動計画を使って進めよう
としているものは5つの技術的な委員会だけではなく、地域振興の
委員会も含めて協議会の取組として普及をしていこうという考
えのもとに作った。地域振興での取組については、ここでど
こまで書き込むかということもあるが、普及の延長にあることとして書
くべきである。今回の行動計画では、地域振興や地域づくりに、ど
のように関わっていくかということが課題であり、新しく小委員会を
作って計画を進めようとしている。この行動計画を通してぜひ普
及していきたい。

「この部分はこの小委員会を意識している」ということを明確にした
ほうが良い。「3-4湿原と地域をつなぐ」は地域振興小委員会(仮)
を意識している。「ふれる」というのは、水循環小委員会などを意
識しているなどと、はっきりさせることにより、小委員会と普及再生
小委員会と一緒にやっているということが明確になる。

小委員会は何がニーズで、どんなことをしてもらいたいのかを上手
く聞き取りして、反映していった方が良い。

具体的な取組みに関してプロジェクト単位で書けないか?

プロジェクトというのは一番わかりやすい。ただし、時間的なことや、
これまでのいきがかりからはあまり離脱できない。中身に関しては
重複していたりするため、様々なことを簡素化できないか考えてみ
たい。本日議論した問題点について調整し、全体構想と再生普及
の行動計画案に反映させ、自然再生協議会にかけたい。

委員長 委員 事務局